

# DX時代を支えるクラウド



野村総合研究所 常務執行役員  
マルチクラウドインテグレーション事業本部 本部長  
たけもと ともしげ  
竹本 具城

欧州では2020年を境に、マーケットの主役がデジタルネイティブ世代に移るとされ、イノベーションのトレンドも変化しつつある。スタートアップ企業への投資も盛んに行われており、注目すべき場所の1つである。2019年10月のスペイン出張での見聞から、DX時代におけるプラットフォームとしてのクラウド活用のあり方について紹介する。

## 欧州のスタートアップの現状

本号で「DX実現にむけたクラウド活用」を特集する前段として、2019年10月のスペイン出張で得られた示唆に触れておきたい。スペインは、ビルバオ・ビスカヤ・アルヘンタリア銀行 (BBVA) がデジタルバンクとしてIMDレポートでも有名である。今回、お客様の出張に同行し、スペインのスタートアップ支援機関、アクセラレーターや金融機関を訪問した。

スペインに限らず、欧州各国にはさまざまなスタートアップ支援機関、アクセラレーターが存在するが、投資や活動が活発なのは、イギリス、ドイツである。ハブ機能としては、さまざまな条件においてロンドンが優位であり、スタートアップの資金調達件数や総額も欧州内では常に上位に位置する。欧州におけるマーケットの主役が、2020年を境にトランジショナル世代 (デジタルも使いこなせる旧世代) からデジタルネイティブ世代に移るとされ、イノベーションのトレンドも潮目が変わりつつある。最近では、デジタルネイティブ世代のみをター

ゲットとするサービスを開発したRevolut社、Monzo Bank社などの、イギリスのチャレンジャーバンクがユニコーンとして注目を集めつつある。またパリも、スタートアップシーンの盛り上がりは後発な印象ではあるが都市としての魅力が高く、超巨大インキュベーション施設Station Fの開設もあり、スタートアップに人気のエリアとなりつつある。

今回訪問したスペインには、多くのスタートアップ支援機関、インキュベーション施設やアクセラレーターが存在する。また、スペインは政治的に地方自治体が強面があるため、地方自治体が独自に、かつ積極的に、スタートアップ支援機関、アクセラレーターとの協業や支援を行っている。スペインのGDPから国内マーケット規模を考えた場合、ビジネスとして成立するのかという疑問はある。実際、多数のスタートアップは、国内マーケットの次に、同じスペイン語圏である中南米マーケットをも視野に入れて活動をしており、マーケットポテンシャルは存在するのである。また、金融機関や通信事業者などの民間企業と関係があるアクセラレーターも多く

存在し、これらの民間企業のイノベーションに活用できるスタートアップにも積極的な支援を行っている。中でも有望なスタートアップは、囲い込みのために買収するケースもある。実際、スペインのスタートアップのイグジットは、企業やベンチャーキャピタルによる買収のケースが多いそうである。

## DXに向けたプラットフォームの変化

今回、訪問先のアクセラレーター内で、スタートアップのオフィスをいくつか見学する機会があった。オフィスの壁には、さまざまなビジネスデザインのスケッチとともに、AWS (Amazon Web Service) のさまざまなサービスを組み合わせたシステムアーキテクチャのデザインが貼られていた(筆者はスペイン語が分からないので記述されたアーキテクチャは推測で判断している)。また、出張中に金融機関のイノベーション担当を訪問する機会もあり、プラットフォームについて質問したところ、「これまでは自社でデータセンターを保有していたが、スタートアップや他金融機関の買収で自社データセンターでの対応が難しくなった。アジリティを求めて、インフラはパブリッククラウドを全面的に採用し、自社のデータセンターの保有はやめた」とのことだった。

デジタルトランスフォーメーション (DX) では、既存のビジネスから脱却し、新しいデジタル技術の活用で新たな価値を生み出すことが求められている。ただ、新しいデジタル技術の活用はあくまで手段であり、ビジネスをトランスフォーメーションしていくことが、DXが求める真髄である。さまざまな企業が大なり

小なりDXの推進を掲げ、多様な取り組みを進めている。企業のさまざまなレベルで、DXに向けたPoC (Proof of Concept) で実現可能性の検証が実施されているが、ビジネスの変革にまでたどり着けたケースが少ないのも実情である。ビジネスモデルのPoCまで至らず、デジタル技術の検証で終わる場合も多い。数百のスタートアップから成功するのは数社であると同様に、企業内でDXを推し進めるには、数十、数百のPoCの積み重ねが必要となるであろう。数多くのPoCを効率よく積み重ねるためには、進化のスピードが極めて速い多様なデジタル技術 (AI、IoT、ブロックチェーン、モバイル、ソーシャルデータなど) を活用し、ビジネスモデルが求める最適なシステムアーキテクチャを組み上げることが求められる。このアジリティを確保するには、パブリッククラウドサービスの利用はもはや大前提である。

一方でパブリッククラウドには、毎年、数百・数千の新たなサービスが登場し、仕様変更、規約変更も頻繁に発生する。また、サイバーセキュリティやシステムインシデントへの対応も考慮する必要がある。日々進化するパブリッククラウドのテクノロジーへの取り組みは、一過性ではなく、継続的にウォッチすることも求められる。

DXを進めるためには、ビジネスモデルの変革とデジタル技術を両輪として動かしていく必要がある。求めるべきビジネスモデルを理解し、フィールドテストも含めた数多くのPoCを積み重ねることになる。進化し続けるクラウドをはじめ、幅広いテクノロジーの中から、最適な組み合わせでPoCを進める必要がある。そのためにも、パブリッククラウドの活用は必然なのである。 ■